

映画監督
(高 27 回)

岳龍



石井

独占インタビュー

プロフィール

1957年1月15日、福岡生まれ。

福岡県立福岡高等学校卒。

日本大学芸術学部在学中に映画制作集団「狂映舎」を設立し、8mm 映画『高校大パニック』（1976年）『突撃!博多愚連隊』（1978年）などで一躍注目される。

その後の『狂い咲きサンダーロード —Crazy Thunder Road—』（1980年）、『爆裂都市/BURST CITY』（1982年）ではパンクロックの衝動を映像にまで昇華させるかのような独自の作風で多くの熱狂的ファンを生んだ。

海外でも高い評価を得た『逆噴射家族』（1984年）の後は、ミュージックビデオや実験的短篇作品も数多く製作。

劇場映画に限らず、「体験的な映画」を目指し、常に新たな表現を追い求め続けている。

2006年からは神戸芸術工科大学教授として映像教育にも従事している。

2010年、石井聰互(そうご)から岳龍に改名

代表的な監督作品

「高校大パニック」1976年

「突撃!博多愚連隊」1978年

「狂い咲きサンダーロード」1980年

「シャッフル」1981年

「爆裂都市 Burst City」1982年

「逆噴射家族」1984年(第8回サルン映画祭グランプリ)

「1/2 MENSCH / 半分人間」1985年

「TOKYO BLOOD J・MOVIE・WARS」1992年

「エンジェル・ダスト」1994年(バーミンガム映画祭グランプリ)

「水の中の八月」1995年

「ユメノ銀河」1997年(オスロ映画祭グランプリ)

「五条霊戦記 / GOJO」2000年

「ELECTRIC DRAGON 80000V」2001年

「DEAD END RUN」2002年

「鏡心」2005年

「生きてるものはいないのか」2012年

「シャニダールの花」2013年

「ソレダケ / that' it 」2015年

「蜜のあわれ」2016年

「パンク侍、斬られて候」2018年

——高校時代の思い出

高校時代はとにかく友達と遊んだ。馬鹿なことばかりしてた記憶がありますね、勉強した記憶がほとんどない。福高に行ったのに勉強した記憶が無くて。

友達がすごく面白い人たちがいっぱいいて、それがものすごく思い出に残ってますね、いい友達がいた。あと、女性もきれいな人が多かったです。



——お住まいが高校のすぐそばだったそうですが

子供の時から福岡高校が自分の遊び場だったくらいに、すぐ近くなんですよ、森菓子の辺りの町なんですけど。

朝、NHK のテレビ小説を見終わって、始業のチャイム鳴ってからダッシュで高校行ってきました。いわゆる千代中とって、千代校区なんですけど、山笠でも千代流れのところで

——観る側から撮る側になろうと思ったのは

何もできなかったんですけど、音楽も文章も書けなかったし、マンガやろうとしてできなかったり絵も全然描けなかったんだけども映画をやりたくなって。8mm という機械がね、素人でも、アマチュアでも映像が撮れるっていう機械が出て、これを使って映画を撮りたいなと思った、高校時代に。それが大きなきっかけですね。

あ、それと一つ思い出した。

高校時代のね、一番の思い出っていうか、絶対忘れられないのは3年の時に高校の担任の先生に、お前、将来何になりたいんだって言われて、映画監督になりたいんです。って言ったら、すごく馬鹿にされて、お前なんかのそんなぼんくらが映画の監督なんかになれるわけない。って言われたんですよ。それが一番印象に残ってる。

その時なにくそって思ったんですけど、別に恨んでないですけど、私のことをすごく発奮させてくれたなと思います。

——石井さんが感じる映画の魅力とは

私はね、映画館で映画を観るのが好きなんですよね。今、ライフスタイルがすごく変わって、映画を「情報」として、スマホとかパソコンとかテレビで観るのが当たり前になって、なかなか



か映画館に行く人が減ってきているんですけど、映画館で情報としてじゃなくて「体験」として映画を観るっていうこと。その時に集中して自分が透明な状態で映画を観れる、そこでいろんな気づきがあったりとかいろんな新しい発見があったりとか。映画を観てて自分の心を覗いているっていうか、そういう体験をさせてくれるのがやっぱり映画だと思っていて、それがすごく好きですね。

だから、なかなかね、映画館に行けないかもしれないんですけど、是非、同窓生の皆さんも映画館に行っていていただいで楽しんでもらいたいなと思います。

——福岡高校が舞台となっている作品「高校大パニック」

高校大パニックっていうのは 8mm で撮った作品なんですけど、大学に入った最初の夏休み、福岡に帰省して福岡高校の中で同級生に集まってもらって、スタッフも全部同級生で、出演してもらっているのも同級生とその仲間たちで、その人たちに 1 日、制服を半年ぶりくらいに着てもらって撮った、すごく思い入れ深い作品ですね。

——福岡高校が舞台となっている作品「水の中の八月」

撮影は 1994 年だと思います。福岡に一時、一年くらい戻って暮らしながら福岡で映画を撮りたいなと思って、全編福岡ロケで、福岡高校を舞台にした青春ファンタジー映画です。

ほとんど福岡高校の中と、私が暮らしていた町と私が好きだった博多の街を中心に撮っています。

当時の福岡高校の私が好きだった場所とかふんだんに出ているので、もし、DVD 等で見ることがありましたら懐かしんでもらえるかと思います。

当時の在校生にもたくさん出てもらっています。

— MIZUHACHI GALLERY —



——今後の活動予定、やってみたいこと

私、すごく変わった映画ばかり撮り続けててなかなか皆さんの楽しめる映画がなかったかもしれないんですけど、最近は別のこともやりたいなっていう風に思っていて、ヒューマンな要素、人間ドラマ、そういうものを今、やろうとしてる。

もちろん、今までやってきたもののもっともっと良いものを作りたいと思ってチャレンジしてますんで、より、前よりは見やすい映画になると思いますので、是非、私の監督名を見かけたら、同窓生のよしみで観てやってください。

——同窓生へのメッセージ



同級生たちには馬鹿なことばかりやってて高校時代、大変迷惑をかけてしまいましたけれども、その後もいろいろ応援してくれて、映画を手伝ってくれたり、出演してくれたり、映画見に行ってくれたり、いろいろ応援してもらってます。

福岡の街、福岡高校のみんなが私、大好きで。とても良い、私の原点というかな、切っては切れないものなので、これからもその精神を活かして映画を撮り続けます。

是非また映画館で、あるいはDVD、テレビ等でお会いしましょう。よろしくお願いします。

石井監督、



ありがとうございました！
完